

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：聖星保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：榎 あつみ	定員（利用人数）：150（173）名	
所在地：横浜市金沢区平潟町17-1		
TEL：0045-783-8869	ホームページ： https://www.shinonome-kai.jp/seijou	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 1976年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 しののめ会		
職員数	常勤職員：34名	非常勤職員：11名
専門職員	保育士：施設長 1名	栄養士： 5名
	保育士：全体総括 2名	調理員： 1名
	保育士： 22名	
施設・設備の概要	乳児室（0～2歳児室） 5室	調理室 3室
	幼児室（3～5歳児室） 3室	調乳室 1室
	ほふく室 1室	沐浴室 1室
	遊戯室（ホール） 1室	トイレ 5か所
	事務室 1室	職員休憩室 3室
	鉄筋コンクリート造2階建て 延床面積 1,294.85㎡	園庭 1,916.59㎡

③ 理念・基本方針

【理念】

安全・安心そして信頼をモットーに地域社会との共生をめざします。

【基本方針】

- ・人との関わり・支え合いを大切にし、お互いを認め合い、助け合う関係を育て、人間関係の基礎を養う。
- ・四季を充分に感じ、自然に愛しみ、心身を鍛え、物事に感動し、美しい心を育てる。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

（立地および施設の概要）

聖星保育園は、社会福祉法人しののめ会が運営する、昭和51年4月に設立した保育園です。金沢シーサイドライン野島公園駅から徒歩5分の住宅地の中に位置し、近隣には海の公園や野島山、金沢漁港、八景島、称名寺等があり、散歩や園外活動に恵まれた自然環境にあります。

園舎は鉄筋コンクリート造りの2階建てで、1階は乳児部（2歳児2クラス）と幼児部（3、4、5歳児クラス）が、2階を乳児部（0歳児1クラス、1歳児2クラス）が使用しています。2階にはテラスと遊戯室（ホール）があり、園舎の南側は広い園庭

で、子どもたちは毎日園庭や芝生で遊んでいます。現在0歳児から5歳児まで173名（定員150名）在籍しています。

【園の特徴】

運営主体のしのめ会は保育所を金沢区に当園を含め4園、青葉区に1園を運営するほか、障害福祉サービス1か所、グループホーム3か所を運営しています。園はキリスト教の保育を柱として、「誰からも愛される子 誰をも愛せる子 心身共にたくましい子」を保育目標としています。日々の保育は、子どもが自ら興味、関心をもって活動に取り組めるよう、職員が促していくとともに、それらの気持ちを高めていけるような環境設定をしています。

町内会の方々と互いの行事に参加したり、園庭開放や離乳食試食会、リトミック等への参加を呼びかけるなど、地域の中の保育園として地域の方との交流を大切にしています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月31日（契約日） ～ 2022年4月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 自然を愛しむ戶外活動の取組

海の公園や野島公園等自然豊かな環境を生かし、散歩先で自然に触れる機会を多く取り入れています。子どもが自分で作った散歩バッグを持って散歩に出かけ、木の実や落ち葉を探しながら探索活動を楽しんだり、砂浜で遊んだりきれいな貝殻を見せ合ったり、カニや虫の巣を探したりしています。

園庭は広く、芝生の感触を楽しんで裸足で走ったり、子どもが芝生に霜がおりたのに驚いたり、自然の変化を感じています。畑で栽培している野菜の生長を観察し、芽は出たが育たなかったカブについて、どうしたらカブができるかを話し合っています。

園庭や散歩先で見つけた青虫やかめ、おたまじゃくし等を飼育・観察するなかで命の大切さを学んでいます。5歳児は、園庭にある果物の木に卵や幼虫を発見して飼育・観察し、図鑑で蝶の名前を調べ、蝶の旅立ちに感動し、みんなで喜びました。

2. 職員の自主的な取組による、遊びが発展できる環境づくり

園長が「園で保育向上に向けてどんなことができるか」を問いかけたことから、職員が自ら、園内研修グループ（OJTグループ）を立ち上げました。

「園庭遊びの充実」「散歩で自分たちの街を知る」「乳児も遊べる園庭づくり」「園全体での異年齢児交流」の4つをテーマに、非常勤職員も含めた全職員がそれぞれのグループに分かれて意見を出し合い、子ども主体とした遊びが発展できる環境づくりに取り組んでいます。

職員は、子どもの姿を見たり子どものつぶやきを聞き取り、園庭にタイヤやペットボトル等の素材を増やしたり、小さい子も遊べる手作りおもちゃを設置したり、玩具の整理をして年齢に合った玩具を用意したりすることで、園庭遊びが充実し、小さい子も一緒に遊べる園庭となるよう工夫をしています。

子どもたちは、タイヤでかくれんぼをしたりホースを輪投げにして遊んだり、職員が用意した玩具や素材で子どもの発想や子どもが決めたルールに従って遊んだ

り、異年齢の子どもが自然に関わることができています。

3. 柔軟に計画を見直し、行事や保育を継続する工夫

コロナ禍のため、例年通りの行事や保育が行えず、計画をその都度見直していますが、職員はできる限りの工夫をしています。

様々な感染症対策をして、5歳児が楽しみにしている宿泊保育を年2回（例年は3回）実施し、子どもたちは日常保育とは異なった経験をし、やや緊張しながらも有意義に過ごしました。小学校との交流も例年は複数の保育園参加で行っていますが、今年度は小学校1クラスと当園5歳児だけでの交流を図り、一緒に遊びました。運動会は子どもたちだけのミニ運動会となりましたが、5歳児のソーラン節のお披露目は実施し、5歳児の保護者に参観してもらいました。クッキングも十分に対策を施し、小さいクラスの子どもたちも楽しんでます。

職員は、「子どもにとって大切なこと」「できることは何か」を考えて柔軟に計画を見直し、実行しています。

4. 地域との交流を広げ、子どもが社会体験を積むための取組

園では地域の中の保育園として、地域の方との関わりを大切にし、これを深めています。感染症対策をして小学校との交流を図ったり、例年は近隣の高齢者施設を訪問して折り紙を一緒に楽しんだりソーラン節の披露をしたりしています。園庭開放に来た親子と園児が触れ合ったり、中学校・高等学校・養護学校等の職業体験を受け入れ、園児と生徒が交流をしています。

町内の商店街にある花屋に、毎月、保育室に飾る花を小さいクラスの子どもたちも買いに行き、お店の方と関わっています。地域の魚屋に来園してもらい、魚をおろす実演を子どもたちが見学し、「命を頂く大切さ」を知るきっかけとなり、4歳児クラスではカマキリの飼育に必要な生き餌の「命」について話し合っています。

町内会で行う公園の清掃活動に子どもと一緒に参加したり、地域の方から展覧会の情報を聞き、子どもたちが称名寺の写生をし、金沢区役所での展覧会発表につながるなど、子どもたちは様々な社会体験を積んでいます。

◇改善を求められる点

1. 事業計画の進捗状況を評価する仕組み

中・長期の事業計画は、各事業項目の実施期限、実施担当者、実施方法等を具体的に示し、進捗状況が評価できる内容にして計画を推進することが望めます。また、中・長期の事業計画を実現するために、具体的な収支計画を策定することが望めます。

2. さらなる外部からの不審者侵入対策

出入り口の門は二重になっていて、防犯カメラも複数設置し、朝も園庭遊びの際も、職員が門に立っています。また、不審者侵入に対応した訓練は、想定場所・想定時間を変えて、男性職員が中心になり実施しています。

しかしながら門には鍵がなく、インターホンも設置されていません。保護者からの不安の声も複数あります。保護者が安心できるよう、さらなるセキュリティ対策が望めます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審して

第三者評価受審は今回で2回目となります。前回の受審以降、毎年度、経験年数や職種に関係なく、グループを作り、話し合いの場を設け、保育の質の向上に努めてまいりました。その中で連携の大切さや自己を見つめ直す事の必要性を感じると共に問題点を明確化することでどの様に対応して行けば良いのか、難航する事もありましたが、それぞれの課題に対して角度を変えてみることの柔軟性を打ち出し、受審に向かっていきました。受審したことにより、当園の力を注いでいる部分や改善が必要な事、利用者家族アンケートにより、保護者の皆様の様々な意見を知る事が出来、今後の取り組みとして活かしていきたいと思えます。

⑧ 第三者評価結果
別紙2のとおり